

<先週の指標の動き>

| 指標名 | 数値 | コメント |
|---------------------|------------------------------|--|
| 7月チェーンストア売上高 (8/21) | 前年比+1.5% (<+0.1%) (店舗調整後) | 7月のチェーンストア売上高(店舗調整後)の前年比は、2ヵ月連続のプラス。農産品が相場高の影響もあり好調だったほか、猛暑の影響でエアコンなどが売上を伸ばしたため、家電製品のマイナス幅が縮小。 |
| 7月全国百貨店売上高 (8/21) | 前年比▲6.1% (<+3.1%) (店舗調整後) | 7月の全国百貨店売上高(店舗調整後)の前年比は、2ヵ月ぶりにマイナス。前月にクリアランスセールを前倒ししたことにより、その反動で減少したことが主因。猛暑や西日本豪雨などの異常気象によって客足が遠のいたことも影響。 |
| 7月全国消費者物価指数 (8/24) | 前年比+0.9% (<+0.7%) | 7月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)の前年比は、前月から横ばい。原油価格の上昇による灯油やガソリンなどのプラス幅拡大を教養娯楽サービスのプラス幅縮小が相殺。 |
| 総合 | 前年比+0.8% (<+0.8%) | |
| 生鮮食品を除く総合 | 前年比+0.3% (<+0.2%) | |

※ < > は前月の前年比

<国内景気の現状判断と当面の見通し>

(1) 国内景気の現状判断

わが国経済は回復基調が持続。企業部門では、緩やかな輸出増加と高水準の企業収益を背景に、設備投資は増加基調を維持。もっとも、生産は、電子部品・デバイスの在庫調整を主因に足踏み状態。家計部門では、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、個人消費は持ち直しの動き。

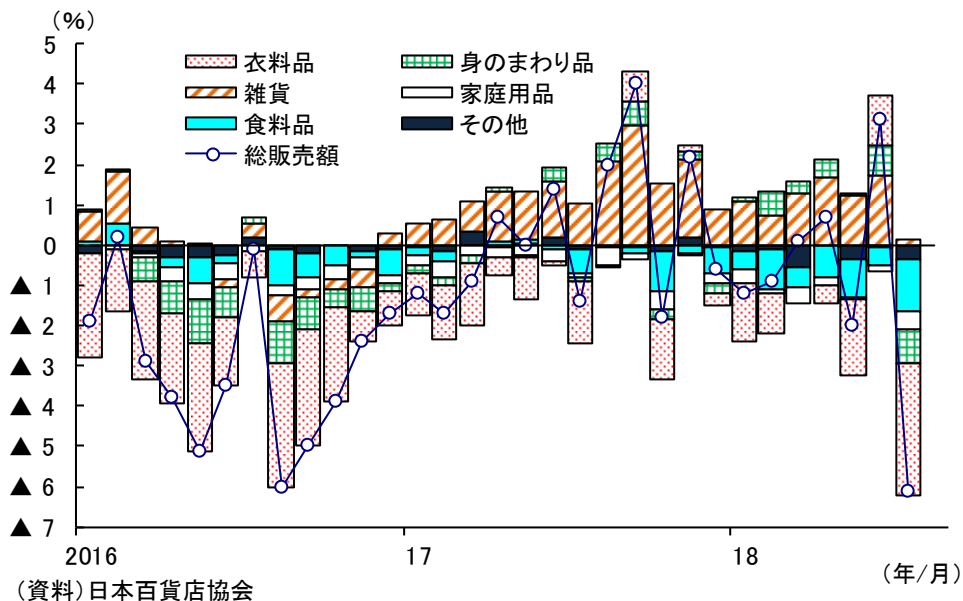
(2) 当面の見通し

先行きは、①世界景気の拡大に伴う輸出の増加、②首都圏の再開発プロジェクトなどによる建設投資や企業の省力化投資の増加、③賃上げに伴う雇用所得環境の改善、などがプラスに作用するなかで、景気回復が続く見通し。もっとも、トランプ政権による通商政策や金融資本市場の混乱などが家計や企業マインドに与える影響や、中国経済の下振れリスク、世界的なIT需要動向などには引き続き注意が必要。

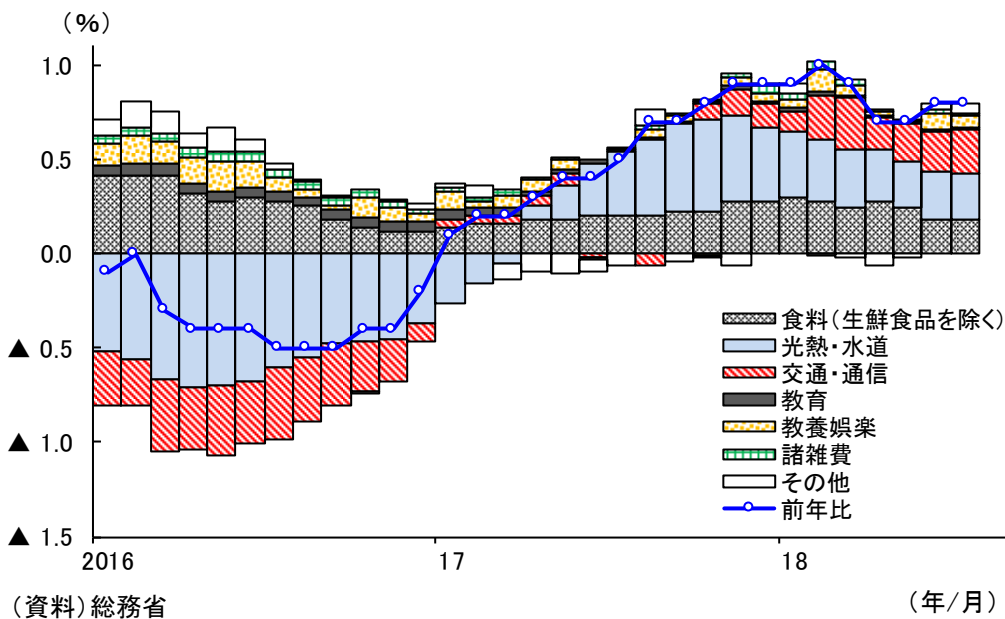
<当面の国内主要経済指標等のスケジュール>

| 月日 | 指標名等 | 発表機関 |
|----------|-----------------------|-----------|
| 8/30 (木) | 7月 商業動態統計 | 経済産業省 |
| 8/31 (金) | 7月 鉱工業生産(速報) | 経済産業省 |
| | 8月 消費者物価指数・東京都区部 | 総務省 |
| | 7月 労働力調査・一般職業紹介状況 | 総務省・厚生労働省 |
| | 7月 住宅着工統計・建築着工・建設工事受注 | 国土交通省 |

(図表1)百貨店売上高(前年比)



(図表2)全国消費者物価指数(前年比)



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。

